

# 感染症

## 相双地域感染症発生動向調査週報(2025年第28週)

(令和7年7月7日～令和7年7月13日)

令和7年7月17日

定点報告(上段:定点当たり/下段:報告数)、全数報告(報告数)

区分	疾病名	2025年					2024年 合計	2023年 合計
		25週	26週	27週	28週	合計		
定点報告	インフルエンザ	0.33	-	-	-	-	-	-
		1	0	0	0	1,216	1,616	2,660
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	1.33	1.00	3.00	2.67	-	-	-
		4	3	9	8	845	3,622	2,663
	RSウイルス感染症	1.50	-	2.00	2.00	-	-	-
		3	0	4	4	83	309	425
	咽頭結膜熱	3.00	0.50	2.50	4.00	-	-	-
		6	1	5	8	66	337	129
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.00	5.00	3.50	2.50	-	-	-
		6	10	7	5	167	657	237
	感染性胃腸炎	0.50	2.50	4.00	0.50	-	-	-
		1	5	8	1	417	610	988
	水痘	-	-	-	-	-	-	-
		0	0	0	0	2	6	1
	手足口病	-	-	0.50	0.00	-	-	-
		0	0	1	0	5	952	129
	伝染性紅斑	1.00	1.00	1.50	3.50	-	-	-
		2	2	3	7	55	0	8
	突発性発しん	1.00	-	0.50	0.50	-	-	-
		2	0	1	1	40	182	266
	ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-
		0	0	0	0	0	19	319
	流行性耳下腺炎	-	-	-	-	-	-	-
		0	0	0	0	8	13	15
	急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-
		0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	1	9	13	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	1.00	-	-	-	-	-	
	0	1	0	0	14	1	3	
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	4	16	1	
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザ入院	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	14	19	10	
新型コロナウイルス感染症(入院)	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	23	120	19	
急性呼吸器感染症(ARI)	61.33	45.67	84.00	60.67	-	-	-	
	184	137	252	182	2529	-	-	
全数報告	百日咳	9	6	13	4	57	0	0

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	<b>RSウイルス感染症 と 咽頭結膜熱 と 伝染性紅斑 の 流行</b> が見られます。
全数把握疾患	<b>レジオネラ症 1名(70代)、百日咳 4名(学童1名、10代3名)</b> の報告がありました。

新型コロナウイルス感染症	相双地域は前週と比較して減少しましたが、県(県内総数)は前週と比較して増加しました。他疾患と同様、基本的な感染対策を心がけましょう。
伝染性紅斑	相双地域は前週と比較して増加しましたが、県(県内総数)は前週と比較し減少しました。警報は続いています。伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症です。感染経路は飛沫感染や接触感染で、約10日の潜伏期間の後、発しんが両頬から体・手・足に拡がります。過去に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫や流産を生じる場合があるため注意が必要です。予防には手洗いや、マスク着用等の基本的な感染対策が有効です。
百日咳	本県で64名の報告がありました。百日咳菌によって引き起こされる、激しい咳を伴う病気です。特に乳児では重症化のおそれがあり、早期のワクチン接種を推奨します。乳児のいる家庭では、保護者を含めた家庭内の感染に注意しましょう。感染経路は飛沫感染や接触感染とされており、手洗いやマスクの着用など基本的な感染対策が有効です。
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症(全数報告)については、本県で2名報告がありました。血液、筋肉、肺等に侵入したレンサ球菌が、まれに急激な症状の悪化を来す感染症です。初期症状には、発熱、悪心、四肢の痛み、傷の発赤、腫れが見られます。急速に症状が悪化した際は、直ちに医療機関を受診してください。
デング熱	デング熱(全数報告)については、本県で1名の報告がありました。デング熱は、デングウイルスを持つ蚊に刺されることによって生じる感染症です。2～15日(多くは3～7日)程度の潜伏期間の後、高熱、頭痛、関節痛、発しん等の症状が見られます。東南アジア地域等の流行が見られる国へ渡航する際は、肌の露出を避け、虫刺され防止薬を利用する等、蚊に刺されないよう心掛けてください。

(参考・引用)福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2025年第28号